

予算	款	項	目	決算書
	10	5	4	302 頁

目 名
文化財保護費

事業名称
文化財保護事業

1. 概要

目的	指定文化財を始め埋蔵文化財の調査保護を行い、情報公開を進める中で、市民の保護意識の高揚を図る	対象	市民
事業概要	○国宝重要文化財等保存整備費事業(埋蔵文化財) ・市内遺跡発掘調査 県指定秋葉鬼塚古墳の範囲確認調査を行った。また、漆生古墳群の発掘調査を行って、保存に向けた基礎資料の作成を行った。川港跡である細長遺跡の石積遺構及び地形測量を行い、図面による記録作成を行った。 ・H23年度・24年度の発掘調査成果についての概要報告作成を行った。 「豊後大野市内遺跡発掘調査概要報告書4」を刊行 ○埋蔵文化財調査事業(単独) ・陣箱遺跡から出土した大量の遺物を、作業員を雇用して整理を行った。 ○国宝重要文化財等保存整備費事業(菅尾磨崖仏) ・国重要文化財である磨崖仏を保存するための覆屋の実施設計を行った。また磨崖仏の周辺環境調査を委託し行った。 ○指定文化財等調査保護事業(単独) ・指定文化財の定期調査と管理委託を行った。重要遺跡の遺構測量や出土遺物実測を委託し行った。		

臨／経	細事業名称	事業内容（主な経費等）	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	財源内訳				評価
					国・県支出金	市債	その他	一般	
臨時	国宝重要文化財等保存整備費事業(埋蔵文化財)	発掘作業員賃金 賃金	2,206	2,119	1,160			959	3
臨時	埋蔵文化財調査事業(単独)	遺物整理作業員賃金 賃金	1,802	1,518				1,518	3
臨時	国宝重要文化財等保存整備費事業(菅尾磨崖仏)	菅尾磨崖仏環境調査委託料・覆屋実施設計委託料 委託料	10,426	4,505	2,252			2,253	3
経常	指定文化財等調査保護事業(単独)	遺構測量委託・出土遺物実測委託 委託料	5,434	3,259				3,259	3
計			19,868	11,401	3,412	0	0	7,989	

2. 指標設定

成果指標	指標名	文化財の記録保存	目標年度	指標の設定理由			
	数値	—	H27	総合計画／後期基本計画において、基本施策(5-2-1)の目標としているため			
活動指標	指標	a	発掘調査の実施地区数	b	文化財の調査・記録保存件数	c	市民への調査実績公開回数
	数値	目標	—	目標	—	目標	1回以上

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H23	H24	H25
文化財の記録保存	回	—	—	5 回
		—	—	— %

活動指標名	単位	H23	H24	H25
a 発掘調査の実施地区数	件	5 件	5 件	3 件
b 文化財の調査・記録保存件数	件	5 件	5 件	5 件
c 市民への調査実績公開回数	回	1 回	1 回	1 回
d		100.0 %	100.0 %	100.0 %

4. 課題と対応

課題
未調査・未記録のものがあ、更なる調査が必要である。
対応（改善点等）
補助事業等を活用し、調査・記録を進める。

5. 事業費・・・H23～H25（決算額）、H26（予算現額）

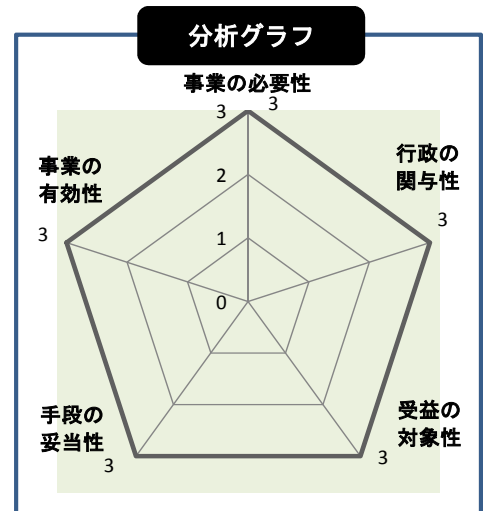
決算額（千円）		H23	H24	H25	H26
うち経常経費		23,393	12,107	11,401	30,599
財源内訳	国費	2,000	2,839	3,252	12,254
	県費	320	160	160	1,960
	市債				
	その他	19,393	4,209		
	一般財源	1,680	4,899	7,989	16,385
うち経常			1,523	3,259	2,028
事業費に係る人件費		6,880	9,017	9,589	9,315
事業費に係る人役		1.60	2.10	2.20	2.10

6. H27年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
埋蔵文化財調査(国宝等・単独)、菅尾磨崖仏保存修理事業が継続する。指定文化財保護(単独)も恒久的な事業であるため、前年並みの事業費が必要となる。

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 法で定められた遵守事項である。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 行政の必須事項である。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 市民全体の財産である。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 妥当である。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 文化財保護・調査が適切に行われている。



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	手法を検討し、目的達成を図ること。